

町民が主体となった平和イベント



この種火を消さぬよう未来へ灯す



平和の種火を絶やさぬよう、「未来へつなぐ平和への思い」をテーマに、町民が主体となって平和音楽祭が開催されました。沖縄戦の犠牲者の冥福を祈るとともに、反戦、平和を誓い、73年前のこの日に思いを馳せました。音楽祭の最後には海勢頭豊さんをはじめ出演者の方々と来場者が一体となり「月桃」を歌い、今ある平和がこれからも続くことを願いました。

平和音楽祭

6月23日
西原運動公園交流広場

「被ばくピアノ」が奏でる 平和の約束

6月30日
さわかび未来ホール

沖縄戦当時の町民の2人に1人が犠牲となり、最も高い戦没率(47%)となった西原町から、平和の願いを次世代へ繋げようと、町民が主体となって企画・運営する初めての平和コンサートが開催されました。多くの方々、企業のご協力により、大人から子ども達まで、たくさんの方々の平和を願う心と想いが詰まった温かいイベントとなりました。



「被ばくピアノ」

1938年に製作され、爆心地から3km圏内の民家で被爆したピアノ。燃えずに残り、劣化が激しい中修復を続けながら80年間優しい音色を奏で続けています。2017年12月に「ノーベル平和賞」授賞式に合わせて開催されたコンサートでも演奏されました。



戦後73年経ち、語りへの高齢化により戦争を語る人が少なくなっている今、平和の願いを音楽にのせて、「平和の種まき」を全国各地で行っています。

矢川光則さん
（広島市）
被ばくピアノ所有者

ピアノ調律師：
被ばくピアノ

平和の約束

「ぼくは何も知らないでも「おじい」は知っている
焼けはてた悲惨な光景を
「わたし」は何も知らないでも「おばあ」は知っている
ひもじくおびえた不安な日々を
サトウキビがやさしく揺れ
人々は田畑で歌いあい、さざめきあい
子どもたちは笑い声をたてて駆けていく
そんな穏やかな「西原」の里
でも突然やってきた「戦争」という大きな魔物
その魔物は村の半分の尊い命を奪った
そして、家族も心もバラバラに引き裂いた
考えるだけでも恐ろしい……
そんなこと考えられない……

今、ぼくたちわたしたちができること
それは「戦争」は嫌だといえる勇気を持つこと
「戦争」のこわさを伝えていく勇気を持つこと
「平和」を願うやさしい勇気を持つこと

さあ、約束しよう「平和」である今日に感謝し
毎日大切に生きていくことを

さあ、約束しよう家族や友達を大切に思い
平和な未来のために協力しあうことを

さあ、みんなで約束しよう
「西原」から、恒久平和の願いと
未来への希望を届けることを

「過去を想い、未来を願う」



地域の取組

地域出身の戦没者の追悼が小波津・小橋川で行われました。



▲小橋川戦没者刻銘碑

▲小波津戦没者慰霊碑